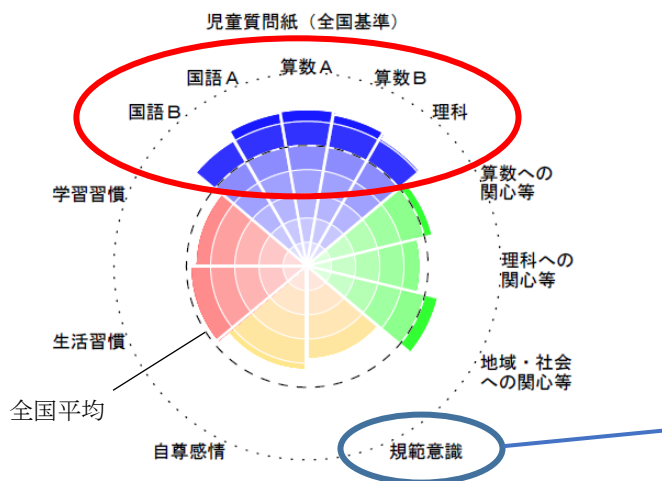


平成 30 年度 横浜市立港北小学校 全国学力・学習状況調査分析

日頃より本校の教育活動にご協力、ご支援いただきありがとうございます。平成 30 年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。結果を受けて、成果と課題を示しました。成果をさらに伸ばし、課題を改善すべく、教職員で努めています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



| 質問番号 | 質問事項 | | | | | | | | | | |
|-----------|----------------|------|------|-----|---|---|---|---|---|-----|-----|
| (4) | 学校のきまりを守っていますか | | | | | | | | | | |
| 選択肢 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | その他 | 無回答 |
| 貴校 | 30.2 | 49.2 | 15.1 | 4.8 | | | | | | 0.0 | 0.8 |
| 神奈川県 (公立) | 39.1 | 48.5 | 10.4 | 1.8 | | | | | | 0.1 | 0.0 |
| 全国 (公立) | 43.8 | 45.7 | 8.9 | 1.5 | | | | | | 0.1 | 0.0 |

| 質問番号 | 質問事項 | | | | | | | | | | |
|-----------|----------------|------|------|-----|---|---|---|---|---|-----|-----|
| (4) | 学校のきまりを守っていますか | | | | | | | | | | |
| 選択肢 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | その他 | 無回答 |
| 貴校 | 30.2 | 49.2 | 15.1 | 4.8 | | | | | | 0.0 | 0.8 |
| 神奈川県 (公立) | 39.1 | 48.5 | 10.4 | 1.8 | | | | | | 0.1 | 0.0 |
| 全国 (公立) | 43.8 | 45.7 | 8.9 | 1.5 | | | | | | 0.1 | 0.0 |

上図から分かるように、国語科、算数科、理科の正答率はともに全国の平均よりも大きく上回っています。しかし、規範意識は全国平均を下回っています。

本校では問題発見・解決能力の育成を軸に「自ら問いをもち、その解決に向けて生き生きとやり取りをしながら学び合う子の育成」を目指して、国語科を中心に研究を進めております。研究の成果が他教科にもよい影響を及ぼしていることが子どもの姿に表れてきています。

規範意識については、どうしてきまりを守る必要があるのか、子どもの考えを掘り起し、一人一人に寄り添った指導をしていけるよう努めています。道徳科の授業では、考え、議論する道徳の授業を通して、子どもが自分を客観的、俯瞰的に捉え、自己の生き方について考えることができるようにしていき、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てていきます。

<各教科の結果>

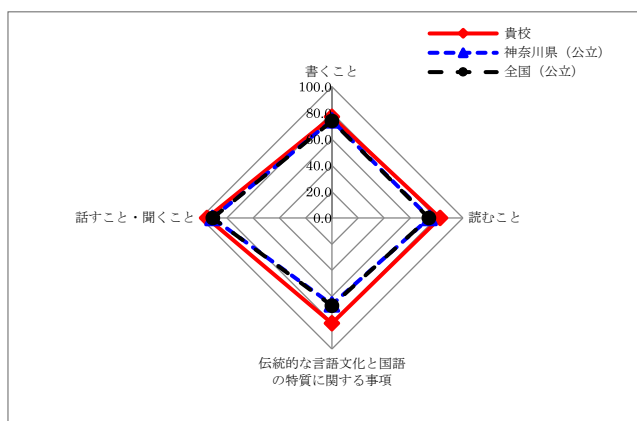
【国語】

正答率は全体的に全国の平均を上回っていた。

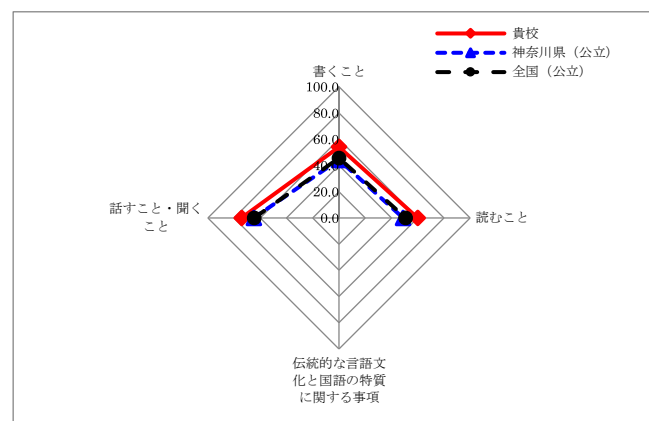
B問題の2一、おすすめする文章の最初の部分に書いた理由として適切なものを選択する設問では、目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることができるかどうかをみることを趣旨として出題され、全国平均と同じ正答率であった。

A問題8エ、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問、「文の中で漢字を使う (かん理)」は全国平均を 22.3 ポイントも上回った。

B問題1三、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる設問では、全国平均を 17.9 ポイントも上回った。



A問題



B問題

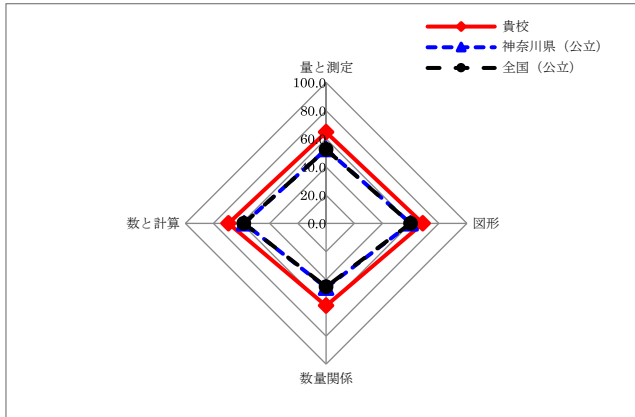
【算数】

正答率は全体的に全国の平均を上回っていた。

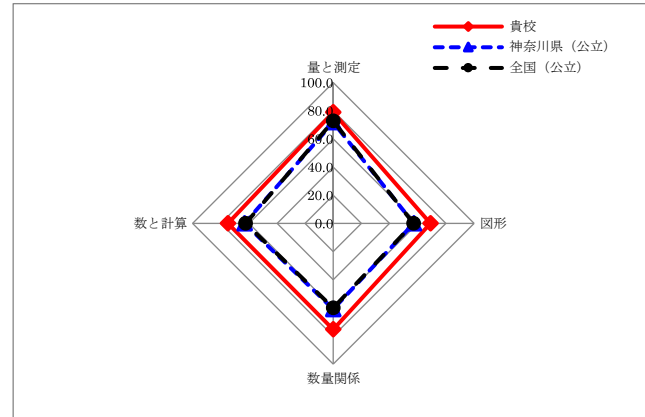
A問題4（1）、面積がそろっている㊟と㊠の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ設問では、異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解しているかどうかをみることを趣旨として出題され、全国平均を0.1ポイント下回った。

A問題9、示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ設問では、折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができるかどうかをみることを趣旨として出題され、全国平均を17.6ポイントも上回った。

B問題5（1）横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く設問では、折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できるかどうかをみることを趣旨として出題され、全国平均を18ポイントも上回った。



A問題



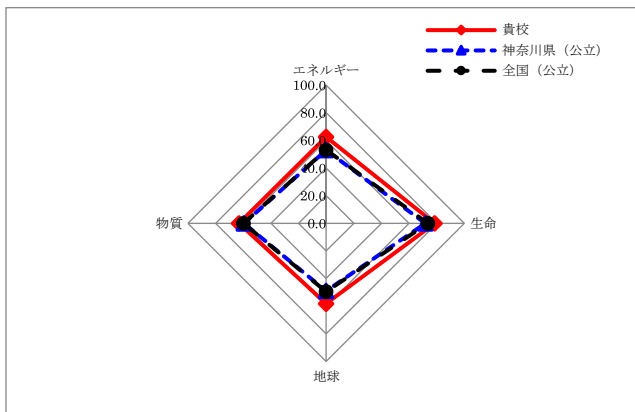
B問題

【理科】

正答率は全体的に全国の平均を上回っていた。

問題2（4）上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ設問では、より妥当な考えをつくり出すために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できるかどうかをみることを趣旨として出題され、全国平均を19.2ポイントも上回った。

問題4（1）ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ設問、（4）食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く設問では、（1）ろ過の適切な操作方法を身に付けているか、（4）実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できるかをみることを趣旨として出題され、それぞれ全国の平均を少し下回った。



<改善に向けて>

【国語】 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることについて課題がある。子どもの問題発見・解決のプロセスに意図的に位置付け、文章全体の構成の効果がどのように変わるのか、目的や意図により適しているものは何かなど、子どもにとって議論する場面が必要となるようにする。

【算数】 2つの数量の関係を構造的に捉えられていないため、5年で学習した単位量あたりや割合が混同してしまったり、どのような場面かを把握できていなかったりすることに課題がある。数直線を用いて構造を捉え、統合的・発展的に考えていけるようにする。

【理科】 実験の操作方法について理解していないこと、実験結果についての分析、説明に課題がある。観察・実験において、なぜそのような操作をするのかを確認しながら進めていく。また、実験結果の分析について、根拠を明らかにしながら説明する学習場面を丁寧に行っていくようにする。